

(3) 林業分野の調査・研究

▼表2-5-7-3 林業分野の主な調査・研究の概要

研究機関名： 林業試験場		
1	調査研究名	森林吸収源インベントリ情報整備事業
	期 間	平成18～22年度
	目 的	森林の炭素吸収量算出に必要な森林関連データを収集する。
	概要及び成果	県内の任意のプロットで森林内の倒木、リター、土壌調査、容積重測定等により、炭素貯留量等の調査用データを採取した。調査データは国で集積、解析され、地球温暖化防止締約国会議で活用されることとなる。
2	調査研究名	マツノザイセンチュウ抵抗性育種に関する研究（松くい虫被害森林の復旧対策）
	期 間	平成14～18年度
	目 的	松くい虫被害対策の一つとして、マツノザイセンチュウに対して抵抗性を有するマツを選抜・創出する。
	概要及び成果	抵抗性マツ創出のため、抵抗性マツ花粉と精英樹との交配実生家系苗木や被害の激害地から選抜したクローン苗木を対象にマツノザイセンチュウを接種検定し、抵抗性の判定を行った。 これまでにアカマツ1系統及びクロマツ7系統について、独立行政法人林木育種センターで「マツノザイセンチュウ抵抗性品種」に認定された。平成18年度は抵抗性クロマツの苗を供給するため採種圃0.23haを整備した。
3	調査研究名	身近な森林としての里山林の活用とその管理方法に関する調査
	期 間	平成17年～21年度
	目 的	かつて薪炭林として利用されていた広葉樹林(里山林)の新たな利用と管理手法を研究する。
	概要及び成果	薪炭林の過去の施業等を解明するため、聞き取り調査等を行い資料を得た。 新たな利用方法の検討のため、森林景観調査を行い、好まれる景観と好まれない景観に関する資料を得た。 広葉樹林に関する既存の調査を活用して里山林の林分構造の変化を分析した。